昭和56年度 学 生 募 集 要 項 金沢大学

（入学者選抜に関する細目）

付　金沢大学案内

目　　次

Ⅰ．学生募集要項

1．募集人員……2

2．第二志望……3

3．出願資格……3

4．入学者選抜の方法……3

5．学力検査等……4

6．配　　点……11

7．健康診断……12

8．出　　願……13

9．外国人特別学生（私費留学生）の特別選考……15

10．合格者発表……15

11．注意事項……15

Ⅱ．入学志願者票記入上の注意

1．志願者名票の記入について……16

2．志願者コード票の記入について……16

Ⅲ．金沢大学案内

1．概　　要……19

2．教養部及び各学部紹介……19

3．学生生活……37

◎添付用紙及び封筒

- 昭和56年度金沢大学入学志願者票用紙
- 教育学部音楽専攻志願者の選択系列・曲目届用紙
- 教育学部保健体育系志願者の選択種目届用紙
- 昭和56年度金沢大学入学志願者健康診断書用紙
- 受験票等返送用封筒
- 入学願書等提出用封筒
- 検定料納入原符及び領収証書用紙

Ⅰ．学生募集要項

1．募集人員

学部	学科・課程			募集人員	計
文学部	行動科学科			40	135
	史学科			35	
	文学科			60	
教育学部	小学校教員養成課程			140	295
	中学校教員養成課程		(国語・社会・数学・理科・英語…各約6 音楽・美術・技術・家庭……各約4 保健・職業……各約2)	50	
	高等学校教員養成課程（保健体育）			20	
	聾学校教員養成課程			15	
	養護学校教員養成課程	小学部		15	
		中学部	（国語・社会・理科・音楽・職業）	5	
	言語障害児教育教員養成課程			20	
	特別教科（保健体育）教員養成課程			30	
法学部	法学科			180	180
経済学部	経済学科			180	180
理学部	数学科			30	130
	物理学科			25	
	化学科			35	
	生物学科			20	
	地学科			20	
医学部	医学科			120	120
薬学部	薬学科			40	80
	製薬化学科			40	
工学部	土木工学科			53	435
	機械工学系学科	機械工学科		104	
		機械工学第二学科			
	工業化学科			53	
	化学工学科			52	
	電気工学科			53	
	精密工学科			40	
	電子工学科			40	
	建設工学科			40	
合計					1,555

◉工学部電子工学科においては増募の計画がある。これに関する詳細は、昭和56年度政府予算案の決定後、昭和56年1月中旬以降に発表する予定である。

表注

(1) 教育学部の中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程中学部欄のカッコ書きは専攻教科を示す。

(2) 工学部の機械工学科と機械工学第二学科の学生は、カリキュラムその他についてすべて同等に取り扱われるから学科別に募集せず「機械工学系学科」として一括して募集する。

(3) 工学部には高等学校の工業教員を養成する目的で「工業教員養成課程」が設けられているが、その募集人員15名は、土木工学科（3名）、機械工学科（4名）、工業化学科（3名）、化学工学科（2名）、電気工学科（3名）の各学科に含まれている。

工業教員養成課程の学生は各学科ともそれぞれ所定の授業科目を履修することは他の学生と同じであるが、職業指導4単位を必ず履修しなければならない。これにより高等学校教諭二級普通免許状（工業）の取得資格を与えられるが、卒業後教員になる義務はない。

2．第二志望

教育学部の一部の課程（専攻）の志願者は、次のとおり他の課程（専攻）を第二志望とすることができる。

(1) 中学校教員養成課程（数学）及び同課程（理科）の志願者にかぎり、中学校教員養成課程（技術）を第二志望とすることができる。

(2) 高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は、互いに他を第二志望とすることができる。

3．出願資格

次のいずれかに該当し、昭和56年度大学入学者選抜共通第1次学力試験（以下「共通第1次学力試験」という。）を受験した者とする。

(1) 高等学校を卒業した者及び昭和56年3月卒業見込みの者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び昭和56年3月修了見込みの者

(3) 学校教育法施行規則第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び昭和56年3月31日までにこれに該当する見込みの者

4．入学者選抜の方法

入学者の選抜は、共通第1次学力試験、本学が実施する第2次試験（学力検査、実技検査、小論文）、健康診断及び出身高等学校長から提出された調査書を総合して行う。

なお、推薦入学、第2次募集及び2段階選抜は行わない。

5．学 力 検 査 等

(1) 学力検査実施教科・科目等

学力検査は、高等学校卒業の学力を標準として、次の表に示す教科・科目について行う。

選択科目については、出願の際に次表の区分により受験する科目をあらかじめ志願者名票により届け出なければならない（経済学部の「社会」を除く）。届け出た科目以外では受験できない。

(ア) 経済学部の出題教科「社会」にあっては、試験に際して「政治・経済」及び「世界史」のうち、1科目を自由に選択し、解答は論述式で1,000字以内とする。

(イ) 教育学部の小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程（小学部）及び言語障害児教育教員養成課程については、学力検査のほか実技検査を行う。

(ウ) 教育学部の次の課程については実技検査のみとする。

- 中学校教員養成課程（音楽専攻）及び養護学校教員養成課程中学部（音楽専攻）の志願者は、音楽実技を受験しなければならない。
- 中学校教員養成課程（美術専攻）の志願者は、美術実技を受験しなければならない。
- 高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は、体育実技を受験しなければならない。

(エ) 医学部の志願者には、小論文を課す。字数は800字以内とする。

学力検査実施教科・科目等

学部・学科（課程）名 / 科目数等 / 出題教科・科目等		文学部		教育学部										法学部		経済学部		理学部						医学部		薬学部		工学部					
				小学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程（小学部） 言語障害児教育教員養成課程		中学校教員養成課程（国語、社会、英語専攻） 養護学校教員養成課程（中学部）（国語、社会専攻）		中学校教員養成課程（数学、理科専攻） 養護学校教員養成課程（中学部）（理科専攻）		中学校教員養成課程（技術、家庭、保健、職業専攻） 養護学校教員養成課程（中学部）（職業専攻）		中学校教員養成課程（音楽、美術専攻） 養護学校教員養成課程（中学部）（音楽専攻） 高等学校教員養成課程（保健体育） 特別教科（保健体育）教員養成課程						数学科 生物学科 地学科		物理学科		化学科						土木工学科 化学工学科 建設工学科		機械工学科 機械工学第二学科 電気工学科 精密工学科 電子工学科		工業化学科	
		出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数
国語	現代国語	◎	2	◎	2	◎	2							◎	2																		
国語	古典Ⅰ乙	◎		◎		◎								◎																			
社会	政治・経済															○	1																
社会	世界史															○																	
数学	数学Ⅰ							◎	3									◎	3	◎	3	◎	3	◎	3	◎	3	◎	3	◎	3	◎	3
数学	数学ⅡB							◎										◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
数学	数学Ⅲ							◎										◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
理科	物理Ⅰ・Ⅱ							○	1	○	1							○	1	◎	1		1			◎	2	○	1	◎	1		1
理科	化学Ⅰ・Ⅱ							○		○								○				◎				◎		○				◎	
理科	生物Ⅰ・Ⅱ							○		○								○															
理科	地学Ⅰ・Ⅱ							○		○								○															
外国語	英語B	○	1			○	1	○	1	○	1			○	1	○	1							○	1			○	1	○	1	○	1
外国語	ドイツ語	○				○		○		○				○		○								○				○		○		○	
芸術	音楽実技（音楽Ⅰ）			○	1							◎	1																				
芸術	美術実技（美術Ⅰ）			○								◎																					
芸術	体育実技			○								◎																					
小論文																								◎	1								

注　◎は必須、○は選択であることを示す。

(2) 実 技 検 査

教育学部の一部の課程で実施する実技検査の範囲と方法は次のとおりである。

◆**教育学部の小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程（小学部）及び言語障害児教育教員養成課程**の志願者は、次の「音楽実技・美術実技・体育実技」のうちから、一つを選んで受験しなければならない。

① 音楽実技

(a) 声　楽

次の２曲のうちから任意の１曲

夏の思い出　中 田 喜 直

荒城の月　滝　廉太郎

（注）1. 無伴奏。任意の調で歌ってよい。歌い始めの希望する音の高さを、ピアノで与える。

2. 楽譜を必要とする者は、各自持参すること。

(b) 器　楽（基本楽器として、ピアノを使用）

次の６曲のうちから任意の１曲

バイエルピアノ教則本より No.74, No.78, No.80, No.88, No.93

ソナチネアルバム第１巻より No.1、第１楽章 (Fr. Kuhlau Op. 20. No.1)

（注）1. 演奏は繰返しを行わないこと。

2. 楽譜を必要とする者は、各自持参すること。

② 美術実技

鉛筆写生画

用具として、鉛筆、消ゴムを持参すること。

③ 体育実技

下記の４種目（A・B・C・D）についてそれぞれ検査する。

A. 器械運動（鉄棒・マット・跳び箱のうちの一つ）

B. 陸上競技（短距離走・障害走のうちの一つ）

C. バスケットボール

D. バレーボール

検査に適した服装及び運動靴を準備すること。

◆**中学校教員養成課程音楽専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）音楽専攻**の志願者は、次表のうち、ア、イ、ウ、エのいずれか一つの系列を選び、その○印を付してある４種目を受験しなければならない。

種目 ＼ 系列		ア	イ	ウ	エ
声楽	(a) コールユーブンゲン	○	○	○	○
	(b) 歌曲 A	○			
	(c) コンコーネ	○			
	(d) 歌曲 B		○	○	○
器楽	(a) ピアノ I	○	○	○	○
	(b) ピアノ II		○		
	(c) 管楽器			○	
	(d) 弦楽器				○

① 声　楽

(a) **コールユーブンゲン**　第1巻　原書番号 No.48～No.85 のうちから当日指定する。

(b) 歌　曲　A　　次の9曲のうちから任意の1曲

イタリー歌曲

1．Le violette　　A. Scarlatti　　変ロ長調；ト長調
2．Vergin, tutto amor　　F. Durante　　変ホ長調
3．Ave Maria　　L. Luzzi　　変ト長調

日本歌曲

4．北　秋　の　　信時　潔　　ニ長調；ハ長調
5．平　城　山　　平井康三郎　　イ短調（ホ陰旋）；ト短調（ニ陰旋）
6．野　ば　ら　　山田　耕筰　　変ホ長調；ハ長調

ドイツ歌曲

7．An Chloë　　W.A. Mozart　　変ホ長調；ハ長調
8．An Silvia（1番のみ）　　F. Schubert　　イ長調；ヘ長調
9．Die Lotosblume　　R. Schumann　　ヘ長調；変ニ長調

(c) **コンコーネ** 50番より次の5曲のうちから当日1曲指定

1．No. 12　　ニ長調；ハ長調；イ長調
2．No. 25　　変ロ長調；イ長調；ト長調
3．No. 35　　変ロ長調；イ長調；ト長調
4．No. 37　　変ホ長調；ニ長調；ハ長調
5．No. 42　　変ロ長調；変イ長調；ヘ長調

(d) 歌　曲　B　　次の6曲のうちから任意の1曲

イタリー歌曲

1．Sento nel core　　A. Scarlatti　　ヘ短調；変ホ短調
2．Caro laccio, dolce nodo　　F. Gasparini　　変ホ長調；ニ長調

日本歌曲

3．浜辺の歌　　成田　為三　　変イ長調；ヘ長調
4．椰子の実（1番と3番）　　大中　寅二　　イ長調；ト長調

ドイツ歌曲

5．Ich liebe dich　　L. v. Beethoven　　ト長調；ヘ長調
6．An die Musik　　F. Schubert　　ニ長調；変ロ長調

（注）1．記載の調以外で歌う場合は、その調の伴奏譜を出願書類と同時に提出すること。
2．歌曲の歌詞は、原語とする。
3．コンコーネは、任意の母音で歌う。

② 器　楽

(a) ピアノ I

バッハ　インヴェンション（2声）より次の6曲のうちから任意の1曲

1．第1番　　BWV 772　　ハ長調
2．第2番　　BWV 773　　ハ短調
3．第5番　　BWV 776　　変ホ長調
4．第6番　　BWV 777　　ホ長調
5．第14番　　BWV 785　　変ロ長調
6．第15番　　BWV 786　　ロ短調

(b) ピアノ II

モーツァルト又は**ベートーヴェン**のソナタのうちから任意の1曲を選び、その第1楽章又は終楽章を弾く。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

(c) 管　楽　器

次の楽器のうちから一つを選び、独奏曲又は練習曲より任意の1曲

1．フルート　　2．オーボー　　3．クラリネット　　4．ファゴット
5．トランペット　　6．ホルン　　7．トロンボーン　　8．サキソフォン

(d) 弦　楽　器

次の楽器のうちから一つを選び、独奏曲又は練習曲より任意の1曲

1．ヴァイオリン　　2．ヴィオラ　　3．チェロ　　4．コントラバス

（注）1．演奏は、ピアノ、管、弦とも繰返しを行わないこと。
2．管、弦とも伴奏をつけない。
3．管、弦の受験者は、演奏する曲が楽章のある場合は、そのうちから任意の楽章一つを選んで弾く。ただし楽章全体が緩徐なものを除く。
4．管、弦の受験者は、演奏する楽譜のコピーを出願書類と同時に提出すること。
5．管、弦の受験者は、原則として楽器を各自持参すること。ただし、コントラバスは持参しなくてもよい。

◆**中学校教員養成課程美術専攻**の志願者は、次の美術実技（①、②）を受験しなければならない。

① 鉛筆淡彩画「静物」

② 色彩構成

用具として、鉛筆、消ゴム、パレット、水彩筆、水彩絵具、図案筆、ポスターカラーセット（12色）を持参すること。

◆**高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程**の志願者は、次の体育実技（①、②）を受験しなければならない。

① 基礎的運動能力検査

持久走を含む。

② 運動技能検査

次の種目のうちから、得意な種目一つを選んで受験すること。男女とも種目の選択は自由とする。

種　　目　　名
器械運動・陸上競技・柔　道・剣　道・ダンス・バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・サッカー・ラグビー・野　球・ソフトボール・硬式テニス・軟式テニス・卓　球・バドミントン

それぞれの検査に適した服装、用具及び運動靴を準備すること。

ただし剣道防具については大学で準備するが、各自のものを使用してもよい。

(3) 試験の期日及び試験時間

月　日	教　科　等	時　間
3月4日（水）	外国語（60分）	9：00～10：00
	国　語（60分）	10：40～11：40
	社　会（90分）	10：40～12：10
	数　学（100分）	10：40～12：20
	実技（教育―小・聾・養小・言障）	12：40～
	理　科（1科目60分） （理学部は1科目100分）	1科目 13：40～14：40 （理学部は 13：40～15：20） 2科目 13：40～15：40
	小論文（90分）	13：40～15：10
3月5日（木）	実技（教育―中・養中・高・特体）	9：00～

(4) 試験場

志願学部	試験場	所在地
文学部	教養部	金沢市丸の内1番1号
教育学部	教育学部	金沢市丸の内1番1号
法学部	法学部	金沢市丸の内1番1号
経済学部	教養部	金沢市丸の内1番1号
理学部	理学部・教養部	金沢市丸の内1番1号
医学部	医学部	金沢市宝町13番1号
薬学部	薬学部	金沢市宝町13番1号
工学部	工学部	金沢市小立野2丁目40番20号

6．配　点

入学者の選抜は4．に記載のとおり、共通第1次学力試験、第2次の学力検査、実技検査、小論文、健康診断及び調査書を総合して行うが、共通第1次学力試験、第2次の学力検査及び実技検査の配点は次表のとおりとする。

学部・学科（課程）	配点	共通第1次学力試験	第2次試験
文学部		1,000	400
教育学部	小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程（小学部）、言語障害児教育教員養成課程	1,000	400
	中学校教員養成課程（国語・社会・英語） 養護学校教員養成課程（中学部）（国語・社会）	1,000	400
	中学校教員養成課程（数学・理科） 養護学校教員養成課程（中学部）（理科）	1,000	600
	中学校教員養成課程（技術・家庭・保健・職業） 養護学校教員養成課程（中学部）（職業）	1,000	400
	中学校教員養成課程（音楽・美術） 養護学校教員養成課程（中学部）（音楽） 高等学校教員養成課程（保健体育） 特別教科（保健体育）教員養成課程	1,000	400
法学部		1,000	400
経済学部		1,000	600
理学部		1,000	注1 600
医学部		注2 1,200	800
薬学部		1,000	600
工学部		1,000	600

共通第1次学力試験の配点は各教科を200とし計1,000とする。

注1．第2次試験の理学部数学科の配点は「数学」を400、「理科」を200とする。

注2．共通第1次学力試験の医学部の「理科」の配点は400とする。

7．健康診断

(1) 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を3月4日（水）午後本学で実施する。

(2) 精密検査の該当者には、実施に関する事項を3月4日の学力検査終了時までに通知する。ただし、教育学部の3月5日実技受験者には事前に郵送で通知する。

(3) 精密検査の該当者が受検しない場合は入学資格を失う。

(4) 調査書又は健康診断書に記載された事項が入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を充たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。

〔注意事項〕

1．次の疾患及び機能障害のある者は、入学を許可しない。

(1) 重症の心臓病、腎臓病及び糖尿病並びに結核性疾患等

(2) 全治の見込みがないか又は再発のおそれが多い精神疾患

(3) その他修学に耐えないと認められる疾患並びに集団生活の中で支障があると認められる疾病及び機能障害

2．学部・学科（課程）によっては、修学に耐えないと認められる視力障害、色覚障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害（肢体不自由）等のある者は、入学を許可しないことがある。

(1) 視力障害により入学を許可しない場合は次のとおりである。

障害の程度等	学部	学科・課程
両眼の視力が0.1未満のもの（両眼の矯正視力による。）	文学部 法学部	※注参照 全学科
	教育学部 理学部 医学部 薬学部 工学部	全学科（課程）
両眼の視力が0.1以上0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、点字による教育を必要とするもの又は将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの（両眼の矯正視力による。）	教育学部 理学部 医学部 薬学部 工学部	全学科（課程）
両眼の視力が0.3以上0.5未満のもの（両眼の矯正視力による。）	教育学部	高等学校教員養成課程 特別教科（保健体育）教員養成課程
	医学部	医学科

※注．修学に著しく支障があると認められる者は入学を許可しないことがある。

(2) 色覚障害により入学を許可しない場合は次のとおりである。

障害の程度等	学部	学科・課程
色盲又は強度色弱（アノマロスコープによる。）	教育学部	小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程小学部、言語障害児教育教員養成課程、中学校教員養成課程（理科・美術・保健・技術・職業・家庭）、養護学校教員養成課程中学部（理科・職業）、高等学校教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程
	理学部	化学科、生物学科、地学科
	医学部	医学科
	薬学部	※注参照
	工学部	土木工学科、機械工学科、工業化学科、化学工学科、精密工学科、機械工学第二学科、建設工学科
中等度色弱（第1色弱、第2色弱）（アノマロスコープによる。）	教育学部	中学校教員養成課程（理科・美術）、養護学校教員養成課程中学部（理科）、高等学校教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程

※注　合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来す場合がある。

8．出　願

(1) 出願期間

期　間　**昭和56年2月9日（月）～昭和56年2月16日（月）**

受付時間　午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日及び祝日は受け付けない。

持参する場合も郵送による場合も所定期日までに必着するよう提出すること。

(2) 出願先

次の各志願学部学生係（教務係）あて提出すること。

文学部学生係	金沢市丸の内1番1号	**理学部学生係**	金沢市丸の内1番1号
教育学部教務係	金沢市丸の内1番1号	**医学部教務係**	金沢市宝町13番1号
法学部学生係	金沢市丸の内1番1号	**薬学部学生係**	金沢市宝町13番1号
経済学部学生係	金沢市丸の内1番1号	**工学部学生係**	金沢市小立野2丁目40番20号

(3) 出願書類及び手続

入学志願者は、次の完備した出願書類等を出身学校長を経て、各志願学部へ提出すること。ただし、出願書類等を本人が直接提出してもよい。この場合出身学校長が作成した調査書は厳封したものとする。

なお、郵送による場合は、本要項に添付の封筒を使用すること。

(ア) 志願者票一式　本要項に添付の用紙による。写真2枚（教育学部の一部の課程では3枚）をそれぞれ所定の欄にはりつけること。写真は正面向半身脱帽で出願前3か月以内に撮影したもの。

(イ) 検　定　料　8,000円、現金又は郵便為替（普通為替に限る）。

郵送による場合は、必ず郵便局の発行する普通為替によること。この場合受取人指定欄は記入しないこと。

(ウ) 調　査　書　文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの（「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、備考にその理由を記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては異状がない場合又は特に記入する事項がない場合でも、必ずその旨を記入すること）。

(エ) 健康診断書　昭和55年3月に高等学校を卒業した者及び昭和56年3月に卒業見込みの者は提出する必要がない。

それ以外の者は、次に掲げる項目について医師が証明し、厳封した健康診断書（本要項に添付の用紙による）を提出すること。

項目		備考
1. 視力	右	裸眼視力1.0未満のものは矯正視力等
	左	
2. 色覚		異常の有無及び程度
3. 聴力	右	聴力障害の有無及び聴力損失デシベル等
	左	
4. 結核		
5. その他の疾病及び異常		1～4以外の疾病及び異常

※検査方法等については、備考欄記載の外、学校保健法施行規則の定めるところによる。

(オ) 検定料原符及び領収証書　本要項に添付の用紙による。

(カ) 返送用封筒　受験票等送付のため、本要項に添付の封筒に、自己の住所氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手をはったもの。

(キ) 教育学部の中学校教員養成課程音楽専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）音楽専攻の志願者は、本要項に添付の「選択系列・曲目届」を、高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は「選択種目届」を提出すること。

注 (1) 日本国籍を有しない者は、上記書類の他、外国人登録済証明書（在留資格が明示されたもの）を添付し、提出書類には当該証明書に記載の氏名を用いること。

(2) 大学入学資格検定試験の合格者は、当該試験の成績証明書を提出して調査書に替える。

(3) 調査書の提出困難な学校（廃校、被災等）の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に替える。

(4) 文部大臣が指定した高等学校に相当する課程を有する在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に替える。

◆ 身体に障害のある者が、受験の際特別の措置を希望する場合は出願の際に希望内容を記した文書を添えて申し出ること。ただし、希望に十分そえるとは限らない。

9．外国人特別学生（私費留学生）の特別選考

外国人で、外国において学校教育における12年の課程を終了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したものについては、本学が実施する学力検査等のほか面接及び書類審査並びに健康診断等を総合して日本人とは異なる基準により、定員外として選考する。

この場合、「共通第1次学力試験」及び財団法人日本国際教育協会が実施する「私費留学生統一試験」の双方を受験していることが望ましい。

この特別選考を希望する者は出願の際、その旨を申し出るとともに8．の(3)に記載の書類のほか次の書類を提出しなければならない。ただし、次の書類を出願期間内に提出することが困難な場合は2月23日（月）までに提出してもよい。

なお、面接の日時及び場所等については、出願書類を受理した後連絡する。

(1) 履歴書（日本語で記載のこと）

(2) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書

(3) 日本語学校等の成績証明書

(4) 日本在住者の身元保証書

10. 合格者発表

合格者の氏名は、3月17日（火）午後4時頃に本学教養部前に発表する予定である。なお、同時に合格者に郵便で通知する。

11. 注意事項

(1) 共通第1次学力試験受験票（写真に貼付してあるシールをはがさないこと）を本学の試験当日必ず持参すること。

さらに合格者発表後の入学手続きの際には本学の受験票も共通第1次学力試験の受験票も必要であるから試験終了後も大切に保管しておくこと。

(2) 2月23日（月）までに受験票等が到着しない場合は氏名、出身高等学校名、志願学部・学科（課程）、出願書類発送年月日を記入して志願学部学生係（教務係）へ照会すること。

(3) 出願手続後はいかなる事情があっても書類の変更、検定料の払いもどしはしない。

(4) 出願手続に不正の事実があった場合は入学許可を取り消すことがある。

(5) 受験に関する照会の際は志願学部・学科（課程）、受験番号を記入し、往復はがきによるか返信用封筒（あて名、郵便番号を明記し、切手をはったもの）を同封のこと。電話による問い合せには一切応じない。

(6) 以上のほか受験票等と同時に送付する「受験者心得」の各事項に注意すること。

II．入学志願者票記入上の注意

1．志願者名票の記入について

(1) ※印のある欄は記入しないこと。

(2) 志望学科（課程）

○教育学部　中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程（中学部）を志願する者は、課程名を書き、志望する１専攻教科名をカッコ書きすること。

○工 学 部　機械工学科及び機械工学第二学科を志望する者は「機械工学系学科」と記入すること。

(3) 選択受験科目

学力検査実施教科・科目の表中（本要項５ページ）出題科目欄に○印で選択科目となっている学部・学科（課程）の志願者は選択する科目のアルファベットを○でかこむこと。（必須科目について記入しないこと。）

2．志願者コード票の記入について

(1) ※印のある欄は記入しないこと。

(2) 記入にあたっては成績請求票貼付欄を除き、下記に示した数字又はアルファベットによること。

第二志望

○教育学部中学校教員養成課程（数学）及び同課程（理科）の志願者のうち、中学校教員養成課程（技術）を第二志望とする者は、[7 : 8] と記入すること。

○教育学部高等学校教員養成課程（保健体育）の志願者のうち、特別教科（保健体育）教員養成課程を第二志望とする者は、[9 : 6] と記入すること。

○教育学部特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者のうち、高等学校教員養成課程（保健体育）を第二志望とする者は、[8 : 2] と記入すること。

生年月日……生れた年月日（大正生れの者は年に50を加える）

例・昭和37年4月15日生れ [3 : 7 | 0 : 4 | 1 : 5]

・昭和4年12月 2 日生れ [0 : 4 | 1 : 2 | 0 : 2]

・大正12年8月20日生れ [6 : 2 | 0 : 8 | 2 : 0]

性　　別……

男	女
1	2

選択受験科目

〔理科〕次のコード表による。

物理	化学	生物	地学
A	B	C	D

例・物理を選択する場合 [4 : A]

〔外国語〕次のコード表による。

英　　語	ドイツ語
A	B

〔実技〕次のコード表による（教育学部小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の志願者のみ記入のこと)。

音楽	美術	体育
A	B	C

卒 業 年……高等学校卒業見込み又は卒業の年を記入する。検定合格者は、検定に合格した年を記入する。

例・昭和56年3月卒業見込 [5 : 6]

工業教員養成課程……工学部志願者（精密工学科・電子工学科・建設工学科の志願者を除く）で工業教員養成課程を志望する者だけ、ここに [1] と記入する。

父兄の氏名		志願者との続柄
	（ふりがな）	
現　住　所	ＴＥＬ　　－（　　）－	
出願の際すでに高等学校を卒業している者は卒業後の経歴を記入すること。 …… …… …… …… 工業教員養成課程の志望について 工学部の志願者（精密工学科、電子工学科、建設工学科を除く）は、工業教員養成課程志望の有無を必ず表示すること。		
工業教員養成課程志望	有　・　無	○でかこむ

教育学部中学校教員養成課程音楽専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）音楽専攻志願者の選択系列・曲目届

中学校教員養成課程音楽専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）音楽専攻の志願者は、下記の要領で該当欄に記入すること。

記

1. 選択系列については、ア、イ、ウ、エのいずれかに、○をつけること。
2. 選択曲目については、該当する空欄に記入すること。
   (1) 歌曲については、該当する数字に○をつけ、調名を記入すること。
   (2) ピアノIIについては、モーツァルトを選んだ者はケッヒエル番号を、ベートーヴェンを選んだ者は作品番号を書き、それぞれ（　）の中に演奏する楽章を記入すること。
3. ※欄は記入を要しない。

（きりとり線）

I．受験番号　※

II．選択系列

ア	イ	ウ	エ

III．選択曲目

声楽	歌曲A（系列ア選択者記入）	イタリー歌曲	日本歌曲	ドイツ歌曲	調名
		1　2　3	4　5　6	7　8　9	
	歌曲B（系列イ、ウ、エのいずれかの選択者記入）	イタリー歌曲	日本歌曲	ドイツ歌曲	調名
		1　2	3　4	5　6	
器楽	ピアノI（全員記入）	バッハ　インヴェンション　（2声）			調名
		第　番	BWV		
	ピアノII（系列イ選択者記入）	モーツァルト　ソナタ	ベートーヴェン　ソナタ		
		K.V.　（　）楽章　長短調	Op.　（　）楽章　長短調		
	管：弦（系列ウ又はエの選択者記入）	楽器名	作曲者	曲名	

志願者氏名	

教育学部高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程志願者の選択種目届

高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は、下記の要領で該当欄に記入すること。

記

1. 体育実技検査の実施要領（10ページ）に従い記入すること。
2. ※欄は記入を要しない。

（きりとり線）

I．受験番号　※

II．選択種目

志願者氏名

昭和56年度金沢大学入学志願者

健　康　診　断　書

※ No.

※

ふりがな 氏　名 生年月日	昭和　年　月　日生	男・女	志願学部 学　科 （課程）	学　部 学科（課程）
現住所			出　身 高等学校	国立 公立 私立　高等学校

診断事項			医師所見
視　力	右	・　（・）	
	左	・　（・）	
色　覚			
聴　力	右		
	左		
結　核			
その他の疾病及び異常			

診断の結果上記のとおり相違ないことを証明する。

昭和　年　月　日

住所(所在地)

医療機関名

医師の氏名　㊞

お願い
1. 検査方法等は、学校保健法施行規則に定めるところによってください。
2. 診断事項中、異常がない場合又は特に記入事項のない場合でもその旨記入してください。
3. 本診断書は、発行者において厳封してください。
4. ※の欄は記入しないでください。

入学志願者への注意	この診断書は、昭和54年3月以前の高等学校卒業者及び大学入学資格検定合格者等用のものである。

（切りとり線）

（きりと

（注）志願学部、学科（課程）及び氏名を原符並びに領収証書の太線枠内に記入すること。

原　符

納入者　　殿		昭和　55　年度	No.
		国立学校特別会計	文部省所管
		項	授業料及入学検定料
		目	入学料及検定料
納付金額	¥ 8，000．—		
検定料		年　月　日領収	
			収入官吏検印

（きりとらないこと）

（きりとり線）

領収証書

納入者　　殿		昭和　55　年度	No.
		国立学校特別会計	文部省所管
		項	授業料及入学検定料
		目	入学料及検定料
納付金額	¥ 8，000．—		
検定料		年　月　日領収	
			領収印

〔注意事項〕

この封筒の中に次の書類が入っているかどうか確認してから提出すること。

1. 昭和56年度金沢大学入学志願者名票、昭和56年度志願者コード票、写真票、昭和56年度金沢大学受験票（注：これらはコード票と写真票の境で折って封入すること。）
2. 入学検定料（郵送の場合は郵便局発行の普通為替）　8,000円
3. 調査書（出身学校長厳封のもの。）
4. 健康診断書（昭和54年3月以前に高等学校を卒業した者等。）
5. 検定料原符及び領収証書
6. 返信用封筒（本学所定のもので宛名を明記し定形速達料金の切手をはったもの。）
7. 教育学部音楽専攻志願者は選択系列・曲目票

III. 金 沢 大 学 案 内

1. 概　要

金沢大学は、昭和24年5月31日法律第150号国立学校設置法が公布され、従前の勅令によって設置されていた第四高等学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校、金沢医科大学、金沢医科大学附属医学専門部、金沢医科大学附属薬学専門部及び金沢工業専門学校を包括し、法文学部、教育学部、理学部、医学部、薬学部及び工学部の6学部をもって設置された。更に、昭和55年4月に法文学部は改組拡充されて、文学部、法学部、経済学部が新たに発足し8学部となった。

大学院については、昭和30年に医学研究科（博士課程）が設置され、その後理学研究科、薬学研究科、工学研究科、法学研究科、文学研究科（以上は修士課程）が設置され今日に至っている。

なお、専攻科（修業年限1年）には、法文学専攻科（経済学専攻）、教育専攻科（教育専攻、保健体育専攻）、特殊教育特別専攻科（言語障害教育専攻）がある。

2. 教養部及び各学部紹介

教　養　部

本学の修業年限は4年（医学部は6年）で、最初の1年半（医学部は2年）は教養部において一般教養課程を履修し、その後それぞれの学部に進学し、専門教育課程を履修することになっている。教養部は新しい大学制度の理念にしたがい、高度の教養を身につけるために設けられたもので、専門教育課程への単なる準備教育ではなく、一般的教養をそなえた判断力と批判力に富む人間を育成することを目的としている。

教養部には次の科目がある。

一般教育科目

（人 文 系）　哲学、倫理学、歴史学、文学、音楽、美術
（社 会 系）　日本国憲法、法学、政治学、経済学、社会学、心理学、地理学
（自 然 系）　数学、物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験、力学、図学
（総合科目）　文化人類学、統計学、科学技術文化史

外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ラテン語

保健体育科目

保健体育講義、保健体育実技

基礎教育科目

放射線物理学、体液生理学、一般生理学、人体発生学、細胞・組織学、生体物質の化学

文　学　部

本学部は、旧第四高等学校を母体に昭和24年金沢大学法文学部文学科として発足して以来、逐年充実され、昭和55年4月法文学部哲学科、史学科及び文学科を発展的に再編成して、新しく創設された学部である。本学部には、行動科学科、史学科及び文学科の3学科が設置されている。

文学部は、人文社会諸科学の長足の進歩に即応し、人間教育に対する社会的要請に応えて、新しい研究教育組織を確立し、総合的かつ専門的知識を身につけた人材を養成することを目的としている。

本学部専門課程においては、各学科所定の授業科目の単位を修得するほかに、卒業論文（行動科学科においては、卒業論文又は特別演習）が課される。

法文学部（哲学科、史学科、文学科）における卒業生は、教育職員、公務員、出版報道関係などに就職し、活躍している。また、大学院への進学者も多い。

なお、昭和47年に大学院文学研究科（修士課程、哲学専攻・史学専攻・国文学専攻・英文学専攻・ドイツ文学専攻の5専攻、入学定員32名）が設置されているが、文学部の創設に伴い、さらに整備充実が進められる計画である。

行動科学科

行動科学科には、①行動の基礎としての認知・学習等を研究する実験行動学講座、②パーソナリテイ・行動病理等を計量的に解明する差異行動学講座、③社会調査の技法を用いて、対人関係・集団・コミュニテイ等を研究する社会行動学講座、④社会移動・コミュニケーション・社会病理等を分析する動態社会学講座※、⑤民族・社会の慣習や制度等の調査を通して、文化の構造と機能を分析する文化人類学講座※、⑥異なった文化、とくに思想・宗教間の相互接触や交流等を研究する比較文化学講座、⑦諸科学の論理的・認識論的・行為論的な基礎を問い、その発展に寄与してきた哲学思想をも考察する行動科学基礎論講座が設置されている。（※印の講座は、昭和56年度以降設置予定である。）

各講座が担当する主な授業科目は次のとおりである。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
実験行動学 差異行動学	心理学概論、応用心理学概論、行動学研究法、心理検査法、心理学実験
社会行動学 動態社会学	社会学概論、社会学史、社会調査、社会調査実習
文化人類学	文化人類学、文化人類学調査実習、人類学実験実習
比較文化学	文化構造論、思想と文化、宗教と文化
行動科学基礎論	人間学、哲学史、科学思想史、論理学・科学方法論

以上の外に、行動科学全般へのオリエンテーションとしての行動科学概論と、各講座ごとの個別テーマを詳説する特殊講義、それらについての自主的学修能力を養うための演習が開講される。

行動科学科においては、行動諸科学の基本的知見を総合的に履修する一方、各自の関心に応じて、心理学、社会学、文化人類学、比較思想及び哲学のいずれかを中心とするカリキュラムを選択履修する。

史　学　科

史学科には、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、地理学及び地誌学※の各講座が設置されている。（※印の講座は、昭和56年度以降設置予定である。）

史学科においては、日本史、東洋史、西洋史、考古学、人文地理学及び地誌学の各概説並びに史学概論、美術史など基本的知識を総合的に履修する一方、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学及び地理学・地誌学のいずれかを中心とするカリキュラムを選択履修し、専門的知識を深めることとしている。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
日本史学	日本史学概説、日本史学特殊講義、日本史学演習
東洋史学	東洋史学概説、アジア諸地域史、東洋史学特殊講義、東洋史学演習
西洋史学	西洋史学概説、西洋史学特殊講義、西洋史学演習
考古学	考古学概説、考古学特殊講義、考古学演習、考古学実習
地理学	自然地理学概説、人文地理学概説、地理学特殊講義、地理学演習、地理学実習
地誌学	地誌学概論、自然地誌、地誌・地域研究特殊講義、地誌・地域研究演習、地誌・地域研究実習、地域文化研究法

文　学　科

文学科には、国語学、国文学、中国語中国文学※、イギリス文学、アメリカ文学、英語学、ドイツ文学、ドイツ語学、フランス語フランス文学※及び言語学の講座が設置されている。（※印の講座は、昭和56年度以降設置予定である。）

文学科においては、文学全般に関する文学概論又は言語学概論を履修する一方、国語・国文学、中国語中国文学、英語・英米文学、ドイツ語・ドイツ文学、フランス語フランス文学及び言語学のいずれかを中心とするカリキュラムを選択履修する。その概要は、次のとおりである。

（国語・国文学）

国語学と国文学に大別される。国語学は、日本語の原理法則を解明する学問であり、音韻、文法、意義の三つに分けられる。国文学は、古今の日本文学を文献学を基礎として、さらに文芸学的、歴史社会学的及び民俗学的な諸方法をも加え研究するものである。その外、日本における漢文学など比較文学の研究も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
国語学	国語学概説、国語学史、国語学特殊講義、国語学演習
国文学	国文学概説、国文学史、国文学特殊講義、国文学演習

（中国語中国文学）

中国語学と中国文学に大別される。中国語学は、中国語の原理法則を解明する学問であり、中国文学は、古今にわたる中国文学を研究する。

中国語学及び中国文学の諸分野の研究を通して、中国文化一般に関する専門的知識の修得につとめる。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
中国語中国文学	中国文学概説、中国文学史、中国語学概説、中国語学史、中国文学特殊講義、中国語学特殊講義、中国文学演習、中国語学演習

（英語・英米文学）

英語・英米文学の研究を通して、英米の文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家、作品の個別的研究と演習など文学研究のほか、英語の理論と歴史に関する講義、演習、更に外国人教師による実際的な指導、ＬＬ装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
イギリス文学	英文学史、英文学特殊講義、英文学演習
アメリカ文学	米文学史、米文学特殊講義、米文学演習
英　語　学	英語学概説、英語学特殊講義、英語学演習

（ドイツ語・ドイツ文学）

ドイツ語・ドイツ文学の研究を通して、ドイツの文化一般に関する研究と教育が行われる。語学・文学の理論的研究並びに各作家・作品の個別的な研究と演習が行われる。同時に外国人教師による実践的な指導も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
ドイツ文学	ドイツ文学史、ドイツ文学特殊講義、ドイツ文学演習
ドイツ語学	ドイツ語学概説、ドイツ語学特殊講義、ドイツ語学演習

（フランス語フランス文学）

フランス語を修得し、フランス文学の研究を通してフランス文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家作品の個別的研究と演習など文学研究のほか、フランス語の理論と歴史に関する講義、演習、更に外国人教師（予定）による実際的な指導も行われる。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
ンランス語フランス文学	フランス文学史、フランス文学特殊講義、フランス文学演習、フランス語学概説、フランス語学特殊講義、フランス語学演習

（言　語　学）

言語学は、人間の「ことば」を対象とする学問であり、日本語を含む世界の諸言語の構造（音韻・文法・意味）の研究を中心に据えながら、地理的分布や社会的機能などの観点からも多面的にとらえようとする。本講座では、言語学概論及び音声学を始め、記述言語学や歴史・比較言語学の諸分野について個別的にあるいは一般的に講ずる。英・独・仏・中以外の外国語も履修できるよう特殊語学も開講される。

〔講　座〕	〔主な授業科目〕
言　語　学	言語学概論、言語学史、比較言語学、音声学、言語学特殊講義、言語学演習、特殊語学（希・羅・梵・露・その他）

◆教育職員免許状

教育職員免許状については、文学部創設に伴い新たに課程認定の申請中であるが、卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる予定である。

高等学校教諭二級普通免許状
中学校教諭一級普通免許状
……｛国語・社会・外国語（英語・ドイツ語）

◆大　学　院（修士課程）

		定員		定員
文学研究科	哲学専攻	8名	英文学専攻	6名
	史学専攻	8名	ドイツ文学専攻	4名
	国文学専攻	6名		計32名

教　育　学　部

本学部は、学術を中心として深く専門の学芸の研究と指導とを行い、ひろく教育界の各方面に活躍できる有能な人材を養成することを目的として、旧石川師範学校、旧石川青年師範学校を母体として発足した学部である。

本学部には、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、高等学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、言語障害児教育教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程の７課程が設置されている。

なお、研究と指導の単位として、教育・教育心理・国語・英語・歴史・地理・法経・哲学・数学・物理・化学・生物・地学・音楽・美術・保健・体育・家庭・産業技術・聾・養護教育の21教室があり、学生は、いずれかの教室に所属する。

卒業に際しては、各課程所定の科目の単位を修得するほかに、聾学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程（中学部）を除いては、卒業論文が課される。

本学部における主な授業科目は、次のとおりである。

〔教科に関する主な専門科目〕

国　語　科―国語学概論、国語学演習、国文学方法論、国文学演習、漢文講読、書道演習
英　語　科―英語学概説、英語史概説、英米文学史、英文学演習、英作文・英会話
社　会　科―平安時代史研究、日本近代政治史、西洋史概説
―自然地理学、経済地理学、日本・世界地誌、文化地理学、地理学演習・実習

—憲法学演習、経済学原理、社会学概論
—哲学概論・特論・演習、倫理学概論・演習、倫理思想史
数　学　科—代数学、解析学、幾何学、応用数学
理　　科—物理学概説、物理学実験
—物理化学、無機化学、有機化学、分析化学の講義・実験
—植物生理化学、動物生理学、分子遺伝学、生態学、生物学実験・野外実習
—地質学、古生物学、鉱物学・岩石学、地学野外実習
音　楽　科—ソルフェージュ、声楽(合唱を含む)、器楽(合奏を含む)、指揮法、音楽理論・音楽史
美　術　科—絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術理論及び美術史
保　健　科—学校保健、生理学、衛生学
家　庭　科—栄養学、食品学、被服学、衣料学、住居学、家庭経営
技　術　科—製図、木材加工、金属加工、機械、電気、栽培
職　業　科—職業指導、産業概説、農業、工業、商業
保健体育科—体育原理、体育管理、競技運動、球技運動

〔教職に関する主な専門科目〕

教育原理、教育史、教育方法、教育行政

教育心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学

道徳教育の研究、各教科教材研究、各教科教育法、教育実習

〔特殊教育に関する主な専門科目〕

聾教育科—聾教育、言語指導の理論及び実際、聾心理

養護学校教育科—異常児教育、異常児心理、異常児の病理と保健

言語障害児教育科—養護学校教育科の科目のほかに言語病理学、言語障害学各論

〔教育職員免許状〕

各課程において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりである。

○小学校教員養成課程

小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は幼稚園教諭一級普通免許状取得の可能性もある。

○中学校教員養成課程

専攻する教科の中学校教諭一級普通免許状及び高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は小学校教諭二級普通免許状取得の可能性もある。

○高等学校教員養成課程

高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）及び中学校教諭一級普通免許状（保健体育）を取得することができる。

○聾学校教員養成課程

聾学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

○養護学校教員養成課程

小学部は養護学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

中学部は養護学校教諭一級普通免許状並びに専攻する教科の中学校教諭一級普通免許状及び高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

○言語障害児教育教員養成課程

養護学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

○特別教科（保健体育）教員養成課程

中学校教諭一級普通免許状（保健体育）及び高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は小学校教諭二級普通免許状取得の可能性もある。

◆専　攻　科

教育専攻科	教育専攻	定員 5 名
	保健体育専攻	定員 5 名
特殊教育特別専攻科	言語障害教育専攻	定員 30 名

法　学　部

本学部は、昭和 24 年金沢大学法文学部の法学科として創設されて以来、逐年充実され、昭和 55 年 4 月、法学科を拡充し法学部として発足した。法学部には、法学科が設けられている。

なお、昭和 46 年に大学院法学研究科（修士課程、法律学専攻、現定員 20 名）が設置されているが、法学部の発足に伴い、さらに整備充実が進められる計画である。

卒業生については、司法試験合格者は創設以来すでに 100 名を越し、近時の合格者数は、国立大学中の上位に位置する状況である。また、国家公務員、地方公務員になる者は、近年 20%余に上り、金融機関をはじめ民間一流企業への進出もいちじるしい。

Ⅰ　講座組織……大講座制の採用

近時、公法や私法などの基幹的分野においてはもとより、経済法、社会保障法あるいは国際関係など新しい学問分野の発展もあり、法律学、政治学の専門的領域は、従前と比較し得ないほど格段に広範かつ多岐にわたっている。法学部においては、かかる研究教育領域の拡大深化と多様化に実質的に対応して十分な機能を発揮するため、研究教育体制については、大講座制を採用した。これは、従来の小講座が研究教育その他種々の面で、隣接講座との横のつながりに欠ける一面があったのを是正し、法学の高度の専門的研究教育とともに、総合性、多様性にも耐え得るものとして、法学の研究教育の水準を高めることを目的としている。

法学部においては、かかる観点から、下記の各特色を有する 4 つの大講座を置くとともに、主たる授業科目を開講している。

1．公法大講座

憲法、行政法、国際法、刑法、刑事訴訟法、刑事学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

憲法第一部	憲法第二部	外国公法	行政学
行政法第一部	行政法第二部	行政法第三部	国際法第一部
国際法第二部	国際組織法	刑法総論	刑法各論
特別刑法	刑事訴訟法	比較刑事法学	刑事政策
犯罪学	各演習等		

2．民事法大講座

民法、商法、経済法、民事訴訟法、労働法、社会保障法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

民法総則	物権法・担保物権法	債権法総論	債権法各論
親族法・相続法	商法総論	商行為法	会社法
有価証券法	経済法第一部	経済法第二部	民事訴訟法
準裁判手続法	民事執行法	破産法	国際私法総論
国際私法各論	社会保障法総論	社会保障法各論	雇用保障法
労働法原理	労働団体法	労働保護法	各演習等

3．基礎法大講座

法理学、法制史、比較法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

法理学	法思想史	東洋法制史	比較法
日本法制史	西洋法制史	各演習等	

4．政治国際関係大講座

政治学、政治思想史、国際政治論の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

政治学原論	政治過程論	国際政治史	政治思想史
政治社会学	国際関係論	各演習等	

II　教育体制……2履修コース制と選択的論文指導制度の採用

法学部においては、主として法律関係の科目を必修又は選択必修とするコースIと、主として政治及び公法関係の科目を必修又は選択必修とするコースIIの2つの履修コース制が設けられている。また、学生の志向の多様化に対応するとともに、より綿密な個人的指導による密度の高い教育効果を得るため、選択的論文指導制度を採用する。この2履修コース制、各科目の演習、選択的論文指導制度の活用によって、バランスのとれた専門教育であるとともに、多様化した学生の志向にも対応したきめ細かな専門教育の実をあげ得るよう配慮されている。

◆教育職員免許状

教育職員免許状については、法学部創設に伴い、新たに課程認定の申請中であるが、卒業に

必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる予定である。

高等学校教諭二級普通免許状	社会
中学校教諭一級普通免許状	社会

◆大　学　院（修士課程）

法学研究科　法律学専攻　　定員20名

経　済　学　部

本学部は、昭和40年金沢大学法文学部経済学科として発足し、その後充実・発展を遂げて来たが、法文学部の改組・拡充により、昭和55年4月に開設された。なお、本学部には経済学科が置かれている。

経済学部は、社会経済諸科学の学問領域を包含する新しい学問体系をもって、現代市民社会における社会的・経済的諸事象を総合的にとらえる研究組織であり、また、この社会の担い手として必要な総合的・専門的知識を身につけた人材を養成する。

そのために、自発的学習や共同研究の場として外国書講読（外国経済研究）と全教官の担当する演習が開講され、学生の希望によって選択でき、個性に応じた学習がなされるように配慮されている。

本学部における修学上のメリットは、学生が比較的に少数であるため、教官と学問的に接触する機会に恵まれていることである。

法文学部経済学科における卒業生は、主として民間の企業や銀行で実務家として活躍しているが、国家試験を受けて官界に、あるいは教員免許状を取得して教育界に進出している者も少なくない。

本学部においては理論・計量経済学、経済史学、応用経済学、経済政策学、経営・情報科学の5つの大講座が置かれている。

1．理論・計量経済学

本講座は、経済学の基礎理論を、一般的・抽象的理論の側面と、経済現象の計量的把握の側面とから追求する。

〔主な授業科目〕

経済原論	経済変動論	現代経済理論	近代経済学
計量経済学	統計学総論	数理統計学	経済統計学
経済数学			

2．経済史学

経済理論の多様化という現状を踏まえて、その理論の形成過程、相互関連を歴史的に考察する経済学史あるいはさらに広く社会思想史を媒介とし、従来の経済史に局限されることなく、

歴史的考察に耐え得る経済理論を踏まえた経済史を追求する。単に西洋・日本に限らず、世界史的視野をもって現代経済史を重視する。

〔主な授業科目〕

西洋経済史	日本経済史	一般経済史	中国経済史
現代日本経済史	経済学史	経済思想史	社会思想史

3．応用経済学

本講座は、経済現象を財政、金融、社会、労働、国際関係などの各分野に分けて、それぞれの領域について、理論と現実の両面から研究する。ここでは基礎理論及び経済史の一般的・全般的把握が分化して、各分野ごとの具体的理論と現実的理解が追求される。

〔主な授業科目〕

財政学総論	日本財政論	地方財政論	金融経済論
国際金融論	金融制度論	国際経済学	貿易論
世界経済論	社会政策論	社会保障論	労働経済論
労働運動史			

4．経済政策学

本講座は、一般・応用理論的研究と歴史的研究を前提とし、現代の経済社会の具体的研究を行い、諸問題の科学的・合理的対策及び対策の方法と体系を確立しようとする。とくに、従来の経済学研究で軽視されてきた消費生活や地域経済、環境など国民の生活に密着した分野を研究する。

〔主な授業科目〕

経済政策論	農業経済論	地域経済論	環境経済論
消費経済論	計画経済論		

5．経営・情報科学

歴史の長い経済学に対して、20世紀の学問として体系化されてきた経営学は、経済の実践を担う行動科学たる性格を形成しようとしているが、そこに重要な要素として組み込まれるのが情報科学である。

〔主な授業科目〕

経営学総論	経営機械化論	経営管理論	企業論
会計学原理	会計監査論	管理会計論	機械化会計
簿記原理	情報処理論	システム理論	経営工学
工場計画			

経済学部では履修コースとして経済理論、経済政策、経営の3つが設けられている。学生の履修コースの選択にあたっては教官の研究組織との関連性を重視したうえで、自発的選択の余地を与えるよう配慮している。さらに全体として理論的能力とともに、実践的、基礎技術的能力をも修得できるように授業計画を編成してある。

◆教育職員免許状

教育職員免許状については、経済学部創設に伴い新たに課程認定の申請中であるが、卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる予定である。

高等学校教諭二級普通免許状	社会
中学校教諭一級普通免許状	社会

◆専　攻　科

法文学専攻科　経済学専攻　　定員5名

理　学　部

本学部は、昭和24年5月金沢大学の創設に伴い、旧第四高等学校及び旧金沢高等師範学校を母体として、数学、物理学、化学、生物学、地学の5学科で発足した。

その後、教育研究の進展とともに臨海実験所、電波物性研究施設、低レベル放射能実験施設等の付属施設が設置され、講座数もすでに28に及んでおり、また昭和38年には大学院理学研究科修士課程（5専攻）が設けられるなど逐年整備充実が進んでいる。

なお、コンピュータ利用の増加に伴い、共通科目として電子計算機基礎論（実習を含む）が開講されている。

数　学　科

数学科は、数学解析、函数論、代数学、幾何学、応用数学、函数方程式の6講座から構成され、多方面にわたり数学の基本的な事柄や一般的理論の研究並びに教育がなされている。

〔主な授業科目〕

数学通論	代数学	幾何学	解析学序論
実解析	函数論	函数解析学	数学講究
整数論	統計数学	函数方程式論	

以上のほかに、各講座に一つづつ特論が開講されている。

物理学科

物理学科は、物性物理学、電波分光学、素粒子物理学、核物理学、結晶物理学、プラズマ物理学の6講座から構成されており、物理学科と関係の深い電波物性研究施設と共に、それぞれの分野において精力的に研究・教育が行われている。

また、関連深い施設として共同利用の極低温研究室（液体He製造装置設置）があり研究・教育に利用されている。

〔主な授業科目〕

物理実験学	物理数学	化学物理学	電磁気学
物理数学特論	素粒子・原子核論	力学	原子物理学

物理光学	熱力学・統計力学	電波分光学	生物物理学
量子力学	流体・弾性体力学	プラズマ物理学	量子力学特論
固体物理学	物理学課題研究		

その外、各科目にわたる実験、演習などがある。

化学科

化学科は、理論化学、有機化学、無機化学、分析化学、生物化学、放射化学、錯体化学の7講座から構成され、創意に富んだ基礎的研究が進められ、教育面においては学生の自主的勉学の意欲と相まって着実な成果をあげている。

〔主な授業科目〕

無機化学	理論化学	合成無機化学	分析化学
放射化学	機器分析化学	有機化学	錯体化学
地球化学	生物化学	無機結晶化学	有機合成化学
化学工学	生体酸化論	固体化学	磁気共鳴
応用放射化学	構造化学	錯体構造論	X線解析
化学文献指導	化学課題研究		

これらの講義は実験を伴っている。

生物学科

生物学科は、植物分類・地理学、植物生理・生化学、動物生理化学、発生生物学、生態学の5講座から構成され、内容の充実した教育・研究が行われている。

なお、上記5講座以外にも理学部附嘱臨海実験所、植物園などを利用し海産生物等の研究・教育効果を高めている。

〔主な授業科目〕

植物分類・地理学	生態学	植物分類・地理学野外実習	植物生理学
系統動物学	生態学野外実習	生体エネルギー論	遺伝学
生物学文献指導	動物生化学	動物生理学	生物学課題研究
発生生物学	臨海実習		

これらの講義は、実験及び演習を伴っている。

地学科

地学科は、鉱物学（鉱物学・結晶学）、地殻化学（岩石学・固体地球化学）、地質学（層位学・古生物学）、物理地学（構造地質学・固体地球物理学）の4構座から構成され、従来の地質学、鉱物学といった枠を越え、天文・気象部門を除いた固体地球科学の諸分野にまたがる研究・教育が行われている。

〔主な授業科目〕

鉱物学	岩石学	層位・古生物学	一般地質学
地球物理学	構造地質学	地球発達史	地質図学
地学野外実習	地学演習	地学文献演習	地学課題研究
地学巡検	基礎X線結晶学	岩石成因論	堆積学
鉱床学	応用地質学	鉱物化学実験	

これらの講義は、実験及び演習を伴っている。

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭二級普通免許状
中学校教諭一級普通免許状
…「数　学」…（数学科、物理学科）
…「理　科」…（物理学科、化学科、生物学科、地学科）

◆大学院（修士課程）

		定員		定員
理学研究科	数学専攻	12名	生物学専攻	10名
	物理学専攻	14名	地学専攻	8名
	化学専攻	14名		計58名

医学部

医学部の前身は、遠く旧前田藩時代の文久2年3月の彦三種痘所にその源を発し各学部中最も古い歴史をもっている。慶応3年の養生所、明治3年の医学館、明治12年金沢医学校、明治17年文部省指定石川県甲種医学校、明治20年第四高等中学校医学部、明治27年第四高等学校医学部、明治34年金沢医学専門学校、大正12年金沢医科大学と幾多の変遷を重ね、昭和24年金沢大学の創設により医学部となり、附属病院、神経情報研究施設及び動物実験施設等の付属施設を有して現在に至っている。

医学部の修業年限は、医学進学課程は2年、専門課程は4年である。専門課程における4年間は、小立野の医学部と附属病院で前2年間に主として基礎医学を、後2年間に主として臨床医学の専門教育を行う。

前2年間における基礎医学の学修は人体の構造組織・生理機能の正常状態を観察し、それが病的状態ではいかなる変化を起すかを学び、またそれらの病的変化を起す原因となる化学物質や微生物、更にその病的状態を正常化する薬物などの基礎的知識を学ぶ。また特に系統解剖学実習は、故人の意志と遺族の善意によって医学教育のため献体されたものにより行なわれる。後2年間における臨床医学は、基礎的知識をもとにして実際に外来・入院の患者について指導を受け、討論を行うことによって臨床知識や経験を積み重ねる。いずれにしても医学教育は、人間の生命を扱い人権問題にからむ特殊条件を含むため、医学を志す場合十分留意する必要がある。

6年間の課程を修了した者は医学士の称号が授与され、卒業後、医師国家試験に合格することにより医師の免許が得られる。

〔主な授業科目〕

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、微生物学、寄生虫学、衛生学、公衆衛生学、法医学、内科学、神経精神医学、小児科学、放射線医学、核医学、皮膚科学、外科学、整形外科学、脳神経外科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔学、特別講義（年度ごとにきめる）

◆大学院（博士課程）

		定員		定員
医学研究科	生理系専攻	25名	内科系専攻	17名
	病理系専攻	11名	外科系専攻	19名
	社会医学系専攻	6名		計78名

薬　学　部

薬学部の歴史は、医学部とともに極めて古く、旧加賀藩時代の慶応3年、養生所舎密局が設けられた時に源を発し、幾度かの変遷を経て、大正12年に金沢医科大学附嘱薬学専門部となり、昭和24年5月金沢大学創設とともに薬学部として発足した。

さらに昭和41年、従来の薬学科に加えて製薬化学科が増設され、2学科制として今日に至っている。また、昭和39年大学院薬学研究科が開設された。

薬学部は、人間の科学としての薬学の領域における研究と教育をその使命としている。教育面では薬の基礎的研究、創製と生産、あるいはその管理にたずさわる研究者及び技術者の養成を目標にしている。

最近の薬学は有機化学、生物化学、物理化学を基礎として、薬及び人間の健康を中心にした物質と、人間及びその環境にかかわる自然科学のすべての分野におよんでいる。

薬学部は次の2学科13講座からなっている。講座及び主な授業科目は次のとおりであるが、学生はいずれの授業科目をも受講することができる。また、薬用植物園研究施設があり、研究、教育に利用されている。

	〔講　座〕	〔主な授業科目〕
薬学科	薬化学	有機化学、無機化学
	薬品分析学	分析化学
	生化学	生化学
	生薬学	生薬学、天然物化学
	薬物学	薬理学、毒性学
	微生物薬品化学	微生物学、応用微生物化学
	衛生化学	衛生化学、公衆衛生学
製薬化学科	薬品製造化学	無機及び有機製造化学
	製剤学	薬剤学、製剤学
	薬品物理化学	物理化学、分子構造論
	薬品合成化学	合成化学、有機化学
	生物薬品化学	生化学、分子生物学
	放射薬品化学	放射化学、放射線生物学

その他薬学概論、基礎医学、臨床化学、局方概論、薬用植物学、高分子化学などがある。なお、上記の主な授業科目は実習を伴っており、さらに卒業研究（約10ヵ月）がある。

前記いずれの学科の卒業者も薬剤師国家試験受験資格を有し、合格者は薬剤師となることができる。

また、卒業後の主な就職先としては、製薬、化学工業関係、研究所、病院、薬局関係等がある。

◆教育職員免許状

本学部は学科課程の関係上教職科目の履修は困難である。

◆大学院（修士課程）

		定員		定員	
薬学研究科	薬学専攻	14名	製薬化学専攻	12名	計26名

工　学　部

50有余年にわたる歴史を有する本学部は、日本海側の中心都市金沢の南東部、小立野台地にあり、静かな環境に恵まれている。本学部は土木工学、建設工学、機械工学、機械工学第二、精密工学、工業化学、化学工学、電気工学、電子工学の9学科でもって構成されている。最近の工学は、一方では各専門分野の極度の専門化による発展と、他方では理学と工学、並びに工学各専門分野の相互作用による進歩とがあることを認識し、本学部では絶えずカリキュラムの内容刷新に努力し、学生諸君に新しい工学の基礎と、応用展開能力を身につけてもらうよう努力している。学部卒業後、大学院に進学して、さらに高度の学問を修め、研究を行う道も開かれている。各学科内容は次のとおりであるが、授業科目については要点のみ掲げる。

土木工学科

土木工学（CIVIL ENGINEERING）は人類の文化を支え、近代文明を推進してきた最も歴史の古い学問であり、かつまた未来の豊かな人間社会を築くための原動力となる学問である。さらに、土木工学は人間生活に密着した学問であるため、人間のための学問として、自然科学、社会科学、人文科学等のあらゆる分野と深い関連をもちながら、広範囲にかつ精緻に発展してゆかねばならない使命を帯びた総合的工学であるということができる。

この認識に立ち、本学科では国土整備、資源開発、都市建設、運輸交通施設、環境保全、災害防止等、大地と海洋と人間を対象として施設構造物の立案、設計、建設、運営にたずさわる計画者、技術者の育成が行われ、行政官、建設業技術者、教育者、研究者へと進む人材が養成される。

本学科は、構造力学、河海工学、交通工学及び橋染工学、建設機械学、土質工学の5講座で構成されており、土木工学科の学生に対する講義は、建設工学科との関係を保ちながら行われるが、その主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

構造力学、水理学、土質力学、測量学、土木材料学、鉄筋コンクリート工学、建設機械学、基礎及び土構造学、岩盤力学、道路及び鉄道工学、橋梁・鋼構造学、河川・水文学、海岸・港湾工学、上下水道学、環境衛生学、防災工学、安全工学、都市及び地域計画学、景観工学、電子計算機プログラミング、卒業研究

建設工学科

建設工学科は都市及び地域開発における環境問題並びに環境保全に関する工学基礎と応用技術等の新しい境界領域を取り扱う新しい学科である。

本学科では主として計画、環境、防災を中心に、従来ややもすれば二次的に考えられがちだった人工環境の広範な機能的設計と開発を目的とし、数学、物理、化学、生物、地学等の基礎自然科学、構造力学、移動現象、環境装置及び各種施設などの工学基礎とその応用、都市計画、地域計画、運輸交通計画を重点とする社会科学的工学、地震、風水害を対象とする防災対策などの知識を修得して、いわゆる CONSTRUCTION AND ENVIRONMENTAL ENGINEERING にあずさわる工学技術者の教育と養成が行われる。

なお、本学科は建設基礎学、環境施設工学、建設システム工学、建設防災工学の4講座で構成されており、主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

構造力学、水理学、土質力学、統計解析、移動現象論、建設工学設計法及び演習、建設工学実験、測量学及び実習、応用振動学、計画数理、上下水道学、水質工学、建設計画学、防災工学、橋梁・鋼構造学、環境装置、耐震耐風工学、環境衛生学、景観工学、卒業研究

機械工学系学科

機械工学系学科は、機械工学及びそれに関連する科目並びに応用技術を修得させ、機械工業はもちろんのことあらゆる産業分野にも適用した、時代の要望に応え得る機械技術者を養成することを目的としている。機械工学科は弾性工学、機械力学、熱工学、流体工学、金属材料、繊維工学、塑性加工の7講座から、機械工学第二学科は工作機械、材料力学、熱機関、流体機械の4講座から構成され、各々独立した学科である。しかし機械工学を学ばせると云うことでは共通しているので、両学科は互に協力して学生の教育に当つており、講義並びに実験、実習、演習、設計製図等により基礎的な能力を修得させ、卒業研究を通じて応用、開発、研究の能力を培う場を提供しているが、さらに学科目の選択の自由度を高めることにより特色のある人材の育成を心がけている。

両学科の主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

材料力学、塑性力学、材料強度及び試験、設計工学、機構学、機械力学、熱力学、熱移動、熱機関、流れ学、流体機械、金属組織学、金属材料、高分子材料、繊維機械工学、塑性加工、機械工作、工作機械、溶接工学、自動制御、卒業研究

精密工学科

精密工学科は、パワーよりむしろ精度を生命とする機械の設計・製造並びに応用に関する工学を主として扱う機械系の学科である。「精密工学」は戦後における精密機械、計測制御機器、情報処理機器などの発達と、それに伴う各種の加工法の開発などに応じて生れたものであって、従来の機械工学にとどまらず、エレクトロニクス、応用物理学などとの境界領域を重視する点に特徴がある。本学科は昭和35年に創設され、精密機器工学、計測制御工学、精密加工学、表面工学の4講座から構成されているが、他の関連学科と密接な関係をもって教育が行われている。

主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

精密機器、精密機器設計、振動工学、設計計画、材料力学、機構学、精密測定、計測工学、応用光学、自動制御、エレクトロニクス応用、電子工学通論、精密加工学、精密工作実習、工作機械、表面工学、材料物性、精密機器材料、精密工学実験、卒業研究

工業化学科

工業化学科は、化学に関する基礎的学問を修め、化学工業における技術者及び研究者としての基礎を学ぶ学科である。化学は、われわれの生活に必要なあらゆる「もの」の本質をあつかう学問である。肥料、セメント、薬品、繊維、紙、食品、プラスチックなど化学工業の産物であり、またこれらを加工するのも化学技術者の仕事である。環境汚染や公害防止に関する仕事も化学者の重要な役目である。

本学科の卒業生は化学工業の分野のみでなく、境界領域の産業分野、官公庁などにも進出している。これら時代の進展に対応できる創造的能力をもった学生を養成するために、基礎科目及び実験とゼミナールに重点をおいて教育を行っている。なお、本学科は物理化学、無機工業化学、高分子化学、有機工業化学、有機合成化学、工業分析化学の6講座で構成されている。

主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

有機化学、物理化学、分析化学、無機化学、高分子化学、理論有機化学、電気化学、有機機器分析、安全工学、分析化学実験、工業化学実験、物理化学演習、工業化学演習、工業化学輪講、卒業研究

化学工学科

化学工学科は、「物質の組成あるいは性質を変化させるプロセスに関する工学」と定義される工学の基礎的分野の一つである。私達に身近な化学製品を工業的に生産するには、目的とする化学反応ばかりでなく、原料や最終製品の分離、精製、廃棄物処理などの一連の工程（プロセス）が必要となる。本学科では、このようなプロセス工業全体に共通な原理・原則を一つの学問体系として教育し、プロセス全体を統一的に取り扱うことのできる化学技術者 (Chemical Engineer) を養成することを目的としている。現在、化学技術者の活躍している分野は化学工業をはじめ多くの業種にわたっている。

最近とくに大きな社会問題となっている公害防止と環境保全、食品加工、バイオマス、さらに原子力、太陽熱、石炭の液化等のエネルギー利用に関する工学的技術の開発と実用化は化学技術者に負うところが大きい。

なお、本学科は化学工学基礎、拡散工学、機械的操作、反応工学、伝熱操作の5講座で構成されている。主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

化学工学概論、伝熱工学、流体工学、化学工学計算法、化学工学基礎製図、移動速度論、化学工学熱力学、反応速度論、化学装置設計法、化学工学プログラミング演習、化学工学数学、プロセス制御、粉体工学、反応工学、装置工学、化学工学実験、化学工学セミナー、卒業研究

電気工学科

電気工学は、元来、電子工学、制御工学、情報工学などを包含している学問分野であり、従って本学科では、電気磁気学、電気回路学を基礎として、制御計測、通信、コンピュータ、電気物性、電子デバイス、情報理論などの学問と、電気エネルギーの発生、変換、応用に関する学問を併せて修得することとなる。これらの学科目の教育には、電気、電子両学科が協力して当っている。周知のとおり、電気工学の諸分野は急速に進歩発展しており、その成果はＩＣ、レーザー等のベバイスや通信、制御、情報処理などのシステムのめざましい高性能化をもたらし、それがまた、機械、化学等多くの産業分野に急速に応用されるようになった。また一方電気エネルギー資源の開発と有効利用は、国家的課題としてクローズアップされている。このような情勢のもとに、本学科の卒業生は電気、電子を中心に医用電子、機械、化学など、今日の社会のあらゆる分野で活躍している。

なお、本学科は、電気基礎学、電力工学、電気機器学、電気応用学、通信工学、電気物性学の６講座で構成されている。主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

電気磁気学、電気回路、電子回路、半導体工学、電気材料物性、量子電子工学、発送電工学、電気機器学、制御工学、伝送回路、デイジタル工学、電子計算機、電波工学、テレビジョン、マイクロ波回路、情報理論、電気工学実験、卒業研究

電子工学科

電子工学とは物質又は真空中の電子やイオンの働きを解明し、その働きを通信、計測、制御、情報の処理などに応用し、さらにそれらの応用に必要な素子、システムの開発・研究を行う学問である。コンピュータや情報伝送技術が今日のような高性能なものに発達したのは半導体素子のめざましい発展の上に立った電子工学の総合的な研究成果によるものである。本学科の特徴はしっかりした物理学に基礎をおいて、コンピュータや情報伝送技術の基礎となる教育を行っている点にある。本学科では半導体の物性と応用、電子計算機のシステム、レーザー応用、マイクロ波等の分野において研究が行われている。また本学科の卒業生の多くは電気関係の企業等で電子計算機や半導体の関係の業務に従事しているが、今後医用電子工学などの分野への進出も期待される。

なお、本学科は電子工学基礎理論、電子回路、気体真空電子工学、応用電子工学の４講座で構成されている。主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

電気回路理論、電気磁気学、量子力学、半導体工学、電子物性工学、電子材料、電子管工学、

電子回路、デイジタル工学、マイクロ波回路、伝送回路、電波工学、情報理論、電子計算機、電子工学実験、卒業研究

共通講座（基礎工学教室）

本学部には、以上の各学科に共通する基礎科目を担当する講座として、工業数学、工業物理学、情報処理工学、数理工学の４講座があり、主な授業科目は、下記のとおりである。

〔主な授業科目〕

工業数学及び演習、応用物理学及び実験、力学及び演習、原子核工学、情報数学概論、情報処理工学概論、計算機構概論、数値解析、数理工学概論、数理統計、品質管理

◆教育職員免許状

工業教員養成課程以外の者でも入学後、職業指導４単位を履修した者は、高等学校教諭二級普通免許状（工業）を取得することができる。

なお、履修方法によっては、高等学校教諭二級普通免許状（数学）をも取得することも可能であるが、学科課程の関係上、４年間で取得することは困難である。

◆大学院（修士課程）

		定員		定員
工学研究科	土木工学専攻	10名	精密工学専攻	8名
	機械工学専攻	14名	電子工学専攻	8名
	工業化学専攻	10名	機械工学第二専攻	8名
	化学工学専攻	10名	建設工学専攻	8名
	電気工学専攻	12名		計88名

3. 学生生活

(1) 入学料

入学料は80,000円であり、入学手続きの際に徴収する。

なお、入学前１年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害などの災害を受け、その他特別の事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者等については、願い出により全額又は半額を免除されることがある。

(2) 授業料

授業料は年額180,000円であり、２期に分けて徴収する。

なお、経済的事情によって授業料を納付することが困難で、かつ学業成績が優秀な者には、願い出により選考のうえ、その期の授業料の全額又は半額を免除する制度がある。

また事情によっては、願い出によりその期の終りまで徴収を猶予し、又は月割分納を許可することもあり、更に風水害などの特別の理由で授業料納入が困難な場合にも授業料が免除されることがある。

(3) 入学当初に要する経費

(イ) 入学料　80,000円

(ロ) 授業料　１期分　90,000円

(ハ) 学生健康保険組合費　4年分 8,000円（医学部は6年分 12,000円）

(ニ) 学生教育研究災害傷害保険掛金

文学部、教育学部、法学部、経済学部（4年分）1,150円

理学部、薬学部、工学部　（4年分）2,900円

医学部　（6年分）4,050円

(4) 教科書代等

教科書代は、当初15,000円～20,000円程度必要であるが、理科系学部では実習用器材等の購入のため更に6,000円～8,000円が必要である。

(5) 奨学制度

日本育英会は、学業成績が優秀で、経済的理由により学資支弁の困難な学生に対し、選考のうえ次のとおり奨学金を貸与する。

○一般貸与奨学生　月額 18,000円

○特別貸与奨学生（自宅通学）　〃 20,000円

（自宅外通学）　〃 26,000円

本学では、全学生の約32%（一般貸与奨学生11%、特別貸与奨学生21%）の学生が日本育英会の奨学金の貸与を受けている。

なお、日本育英会のほか、地方公共団体、会社、財団などの奨学制度もある。

(6) 学生寮

本学には、北溟寮、泉学寮（以上男子寮）、白梅寮（女子寮）の三寮があり、いずれも鉄筋コンクリート4階建である。居室は一室2人収容で、各室とも机、椅子、ベッド、本棚等が設備されており、各寮とも食堂、自炊室、浴室、娯楽室、洗濯室等が完備している。収容人員は男子590人、女子164人、計754人であるが、新入生に対する募集は、男子約150人、女子約50人について行われる予定である。

1か月の寮生活費は、寄宿料300円、諸経費約15,000円（夕食費を含む）程度である。

(7) 下宿

本学では、下宿、貸間のあっ旋をする。下宿料及び間代は、場所、部屋の状況によって異なるが、大体次のとおりである。

畳数	下宿料（2食付）	貸間料	備考
4.5畳	27,000～34,000円	8,000～12,000円	◎下宿は電気料別 ◎貸間は電気、ガス、水道料別
6畳	28,000～40,000円	8,000～20,000円	
8畳	31,000～40,000円	10,000～20,000円	

(8) アルバイト

学資の補助のためやむを得ずアルバイトを必要とする学生のために、アルバイトのあっ旋を行っている。ただし新入学生に対しては、学生生活になれるまでの約2カ月間は、あっ旋は行わ

ない。

1日あたりの平均賃金は、事務4,000円～4,500円、軽労働4,000円～5,500円、重労働5,000円～7,000円、家庭教師は週2回で月13,000円～16,000円程度である。

(9) 学生健康保険組合

この組合は学生全員を組合員とし、組合員が病気又は負傷した場合、その医療費を相互に救済することを目的とするものである。組合費は前述(3)に示した額を納入するものとする。

なお、組合員が傷病により医療機関を利用した場合は、医療費の全額の40%以内を給付する。ただし年間を通じて1人40,000円を限度とする。

(10) 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生の互助共済の精神にのっとり、正課中及び課外活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合の傷害保険による補償制度である。

本学は、この保険に学生全員を加入させることとしており、掛金は前述(3)に示した額を納入するものとする。

なお、前項の学生健康保険組合の医療給付と併用することができる。

●卒業者就職状況（昭和54年度）

（昭和55年5月1日現在）

学部	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率（百分比）	業種別（百分比）鉱業建設業製造業	卸小売金融保険不動産業	運輸通信電気ガス水道サービス業	公務員教育	その他	地区別（百分比）石川県内	福井富山	京浜	東海	阪神	その他	卒業者数（累計）
	人	人	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
法文学部	326	293	284	97	14	26	10	48	2	22	16	25	15	13	9	7,149
教育学部	239	233	183	79	1	0	1	98	0	52	29	2	9	5	3	5,837
理学部	133	109	84	77	12	6	17	63	2	23	15	38	12	5	7	2,432
医学部	109	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,404
薬学部	74	50	47	94	30	2	51	17	0	30	13	8	17	19	13	1,510
工学部	414	329	329	100	75	3	9	11	2	16	14	35	16	17	2	7,310
合計	1,295	1,014	927	91	34	10	10	45	1	26	18	24	14	13	5	26,642

◎ 受験生の宿泊について ◎

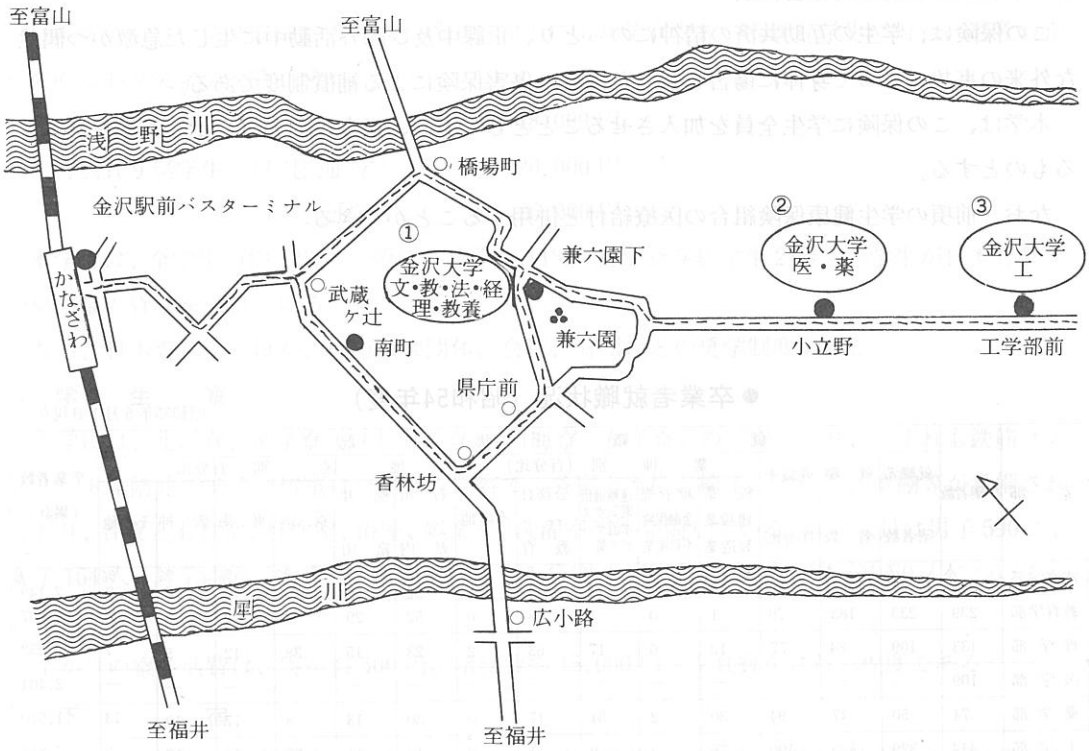
大学では宿泊のあっ旋をしないので、受験生において確保されたい。

なお、下記であっ旋してくれるので、希望者は返信用封筒（切手貼付）同封のうえ2月20日までに照会されたい。（1泊2食4,400円、5,000円、個室はそれぞれ30％増し。）

記

金沢市旅館協同組合　〒920 金沢市本多町3丁目10番26号　電話(0762)21—1147・63—3811

◎ 金沢大学試験場案内略図 ◎



①	文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 試験場	北鉄バス	金沢駅前発	錦町　行き	兼六園下　下車
				平和町 光が丘　行き 円光寺	南町　下車
②	医学部 薬学部 試験場	〃	〃	錦町 湯涌温泉　行き 工学部前	小立野　下車
③	工学部　試験場	〃	〃	〃	工学部前　下車

◆この学生募集要項を希望される方は、返信用封筒（角型3号200円切手貼付、あて先明記のもの）を同封のうえ下記あてお申し込み下さい。

〒920　金沢市丸の内1番1号　金沢大学学生部入学主幹付入学試験係